

血を繋げる。 勝利の本質を知る、アントラーズの真髓
(幻冬舎単行本)



発売日: 2017年6月7日

出版: 幻冬舎

著者: 鈴木満

ページ: 184

PDF

「献身、誠実、尊重」をスローガンに、
組織に関わるすべての者が、
勝利のために固く結束する！！

だから、鹿島は勝負強い！

2016年のクラブワールドカップ決勝。
鹿島アントラーズは、世界のサッカーエリートで構成される
レアル・マドリードと対等に渡りあい、世界を驚かせた。

その鹿島アントラーズは、Jリーグでは無類の勝負強さを誇り、
タイトル獲得数は他のチームを圧倒する。

茨城の鹿島は、地理的にも非常に不利な場所にある。
海沿いに位置し、人口も多くはない。
にも関わらず、なぜ、鹿島アントラーズは強いのか。
その中心にいるのが、チーム設立当時から
強化責任者をつとめる、鈴木 満という男だ。

この男が、鹿島アントラーズに脈々と流れる「鹿島の血」を
守り続け、伝え続けてきているから、鹿島はブレない。

著書では、鹿島の血を、いかに繋いできたのかにフォーカスを当てている。

指揮官と選手たちの間に立ち、集団を観察する。
鈴木がチームを観察し、問題が起きそうであれば未然に消し、
綻びができてしまえば、迅速に対処する。
そうやって、鹿島ブランドをつくりあげてきたのだ。

組織を如何にうまく回して結果を出すのか。
ビジネスマンが参考になるメソッドが満載の一冊だ。

1章 サッカーの神様、ジーコ。鹿島の神様、ジーコ。

2章 強化部長こそが、クラブのルールブックである。

3章 血を繋いでいく。勝利をつかみとるための、エピソード45

(例 / "もってる人間" を大事にする。 / 監督にも鹿島の文化を守ってもらう。 / OBが伝統を継承する。 / アメとムチ。 / 派閥をつくらない。 / 編成3割、人間関係7割。 / 功労者には、ふさわしい最後を。 / 大舞台では小さな積み重ねこそが重要。)

4章 なぜ、鹿島に人材が集まるのか？

5章 マンさん論。

(石井正忠 / 柳沢敦 / トニーニョ・セレーゾ / 高井蘭童 / 椎本邦一 / 新井場徹 / 内田篤人 / 秋山祐輔)

6章 どこにも負けないクラブをつくる。

<https://k2s.cc/file/e5db077d258b3/6Zhhvtyle.pdf.rar>